

地域事業の進捗率

平成23年度については見込みの数値です。

区分	配分額(千円)	進捗率(H22)	進捗率(H23)
合併前上越市	28,817,329	76.3%	92.3%
安塚区	1,935,533	62.3%	69.8%
浦川原区	1,470,748	43.8%	49.8%
大島区	1,434,415	54.8%	59.2%
牧区	1,522,525	53.9%	61.5%
柿崎区	3,015,906	59.0%	70.8%
大潟区	3,005,991	47.8%	73.0%
頸城区	2,872,155	60.0%	70.7%
吉川区	1,933,290	67.9%	71.4%
中郷区	2,296,351	57.1%	65.6%
板倉区	2,647,530	55.6%	59.3%
清里区	1,130,230	72.5%	75.6%
三和区	2,433,053	57.3%	63.1%
名立区	660,213	58.4%	61.9%
地域事業 合計	55,175,269	67.2%	79.9%

9月議会の最終日。市民団体から提出された「地域事業費制度の見直しに関する請願」について採決が行われました。結果は、日本共産党議員団と市民ネット改革所属の2議員が賛成したものの、賛成少数で不採択となりました。

この請願は、住民自治と合併問題を考える会（佐藤忠治代表）が7月に提出したもので、市民を対象にした地域事業費制度見直しについての市主催の説明会を早急に開催することを求めていました。

採択に先立つ討論で私は、請願に賛成の理由をのべました。

私は、「地域事業費制度は新市建設をすすめていく上で重要な位置を占めている。これは合併前の14市町村が法律に基づいて決めた合併の約束のひとつだ。したがって、新市の市長に

は、これを誠実に執行する義務があるし、もし制度の見直しをする場合は関係区の合意を形成するべく慎重に進めなくてはならない。この請願は地域協議会以外の場でも直接市民に説明していただけないかというものだ。市民からぜひ説明会の開催をという声が上がっているのだから、それに積極的に応えるべきだ」と主張しました。

請願に反対を表明した議員からの反対討論はありませんでしたが、9月16日の総務委員会では、「すでに市長は政治決断し、厚生産業会議の関係予算が提出されている。いまとなつては遅すぎる」「いま、市民に説明すると逆に混乱が生まれる」などのべていました。市民から求められているのに、議会がこんなことではないのでしょうか。

地域事業費制度は合併時の約束。市民説明会開催は当然の要求
「市主催の説明会開催」求めた請願で私が賛成討論



記念式典で挨拶する矢野学実行委員長

小さくても輝く学校が誇り

県立安塚高校が創立100周年記念式典

ヤナギバヒマワリが花どきを迎えているなか、新潟県立安塚高等学校の創立100周年記念式典があり、参加してきました。会場となった体育館には生徒、同窓生、現旧職員など400人ほどが集まりました。

最初に実行委員会を代表して挨拶した矢野学委員長は、1万5800人余の卒業生を送り出した安塚高校の歴史を振り返りながら、スポーツ、文化など様々な分野で地域に貢献してきたことを紹介しました。また在校生には、「新しい自分づくりをし、社会のために貢献する人間になるよう切磋琢磨してください」と激励しました。さらに、「同校を存続させるために、今後、

小さくてもきらりと光る活動などを総動員しながら、生徒が通いたくなる特色ある学校づくりをすることが重要だ。そのためにご支援を」と訴えました。

式辞で芳賀昌隆校長は、同校が広く東頸城地域の人材を育ててきた歴史をわかりやすく紹介し、「さらなる躍進を期して職員一丸となっていっそう努力していく。小規模校の良さを生かして進路を確実に保障出来るようにしていきたい」と決意を表明しました。在校生にたいしては、「人と人の絆を大切にし、目標と希望をもって力強く人生を歩んでください」と呼びかけました。（裏面へ続く）



NO 1523
2011.10.16

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
 TEL 025-548-3628 (有線) 4867
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hosei1.jp/>

一〇日ほど前、長野中央病院で医師として働いている中野友貴さんのベトナム旅行記を見て興奮しました。訪ねた場所で次々と似顔絵を描きまくり、現地の人たちと楽しく交流されている様子がじつによく伝わってきたからです。

旅行記に掲載されていた似顔絵は三二枚、いずれも描かれた人の特徴を見事につかんで表現してありました。頬骨の目立つ旧南ベトナム大統領府の職員、目がとてもやさしいホテルのマッサージ師等の絵は、ひよっとしたら、性格まで似顔絵に描き込まれているのではないかと思うくらい似ていました。

「すごい絵だな。これなら、おれも描いてもらいたい」そう思つて中野さん宅へ連絡したところ、お連れ合いの早苗さんから「ぜひ、おいでください。ただ、お酒を飲まないで描けないそうですよ」と返事がありました。それで、先週の土曜日、地酒を二本持ち、中野さん宅へ出かけてきました。

夕方、中野さん宅へ着くと、すでに居間のテーブルの上には手づくりの料理が並んでいます。トマト、ブロッコリー、パプリカのサラダ、茄子の煮物、煮豆、イクラやエビなどが入ったちらし寿司、レタスと春巻き、それにおでんまで用意してありました。おや、なつかしいと思つたのは、サツマイモの茎。この油炒めもあつたのです。これはたいへんなご馳走です。

懇親会の中野さん夫婦に子どもさんたち、それと中野さんや私の共通した友人である山口さんや橋本さんも加わつて、総勢八人となりました。午後六時過ぎに開始。中野さんが二合ほどお酒を飲んだところで、お連れ合いから「おとうさん、そろそろ描いた方がいいんじゃないの」と声がかかりました。

中野さんは腰に付けたバッグの中から黒の筆ペンを取り出し、まず、私の似顔絵から描きはじめました。筆ペンのキャップを口にくわえ、描く対象となつた私を前方や後方から観察した後、左手に私製の筆ペンを持ち、スツ、スツと筆を動かします。仕上げ段階では、うす墨と朱墨の筆ペンも使つて描き上げました。それから山口さん、橋本さん、早苗さんを次々と描いていきました。いくつもの方角から描く対象を見つめる時の目、スピード感あふれる筆さばきがすごい。私は食べたり、飲んだりすることを忘れ、見入ってしまいました。

ひとりの人を描き上げると中野さんは、百円ショップで購入してきた葉書大の額に入れて、みんなに「どうだ」といった調子で見せてくれました。そのあとが面白い。「似ている、似ている」「髪のはねているところがいい」などといった声が出るたびに、みんなが笑顔になります。山口さんの似顔絵が描き上がった時には、「これはめちゃくちゃだ」と思いました。しかし、目だけは山口さんの目そっくり、この大胆かつ独創的な作品にみんな爆笑でした。

この日、中野さんは似顔絵だけでなく、お連れ合いの手づくり料理、私を持ち込んだ母の漬物、ツノハシバミの実なども描きました。中野さんの描いている様子があまりにも楽しそうだったので、私も山口さんも似顔絵描きに挑戦しました。中野さんいわく、「おれが描いていると、みんなが自分も描けそうだと思うんだよな」。

似顔絵を描いてもらい、自分でも描き、改めてわかつたのは、似顔絵ひとつで笑顔が生まれ、人間同士が仲良くなることです。中野さんが初めて訪問したベトナムで、言葉をかわすこともできないのに、楽しい交流ができた理由がよくわかりました。

がら、「夢はイメージできればかならず実現できる。夢をもって実現するまで頑張ろう。壁にぶつかった時にはこの日の話を参考にして突破してほしい」と訴えました。そして、最後に生徒のみなさんに贈った言葉は、「素直に、まっすぐに」でした。生徒のみなさんの目が輝いていましたね。

ツノハシバミの実はいまが食べごろ

散歩で見つけた木の実のひとつに、子どもの時分から「かしの実」と呼んでいたものがあります。これがいま食べ頃を迎えています。上着のポケットにいくつか入れといて、「食べたことあるかね」と見せると、50代以上の方はたいがい食べたことがあると言います。私がこの実を初めて食べたのは、中学生の頃でした。吉川区の尾神で見つけたのです。実は白くて、歯でかむとカリッという音がしたものです。

木の実の正式名称はツノハシバミ（角榛）、写真は吉川区代石の里山で見つけ、撮影しました。



（表面からの続き）在校生を代表して喜びの気持ちをのべたのは早川愛美（はやかわ・まなみ）さんです。早川さんは、「100周年記念に参加できることをうれしく思います。いま、学校は普通



在校生を代表して喜びの言葉をのべる早川愛美さん。

科2学級で、分校は松之山だけですが、バレーボール部や陸上部などがきらりと光る安塚高校の名前を全国に広げてきました。それができたのは、私たちの活動を常に見守ってくださった地域の人たちがいたからです。これからも伝統を守り、さらに挑戦して行きたい」と決意をのべ、大きな拍手に包まれました。

式典後の記念講演、講師は海洋冒険家の白石康次郎さんでした。白石さんは、ヨットで世界最年少単独無寄港世界一周を成し遂げるなど数々の実績を積み重ねてきた人です。

白石さんは、「夢航海～夢を実現しよう」と題して1時間にわたり講演、自分が歩んできた経験を語りな